

5年生社会科

「自然災害の防止」

指導計画

～秋田県を流れる子吉川を題材として～

小単元「自然災害の防止」

1. 本小単元の概要

(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。

我が国の国土ではさまざまな自然災害が起こりやすく、自然災害の発生は、私たちの生活や産業に大きな影響を与える。その被害を防止するために、国や県などがさまざまな対策や事業を進めていることなどを、郷土秋田県を流れる子吉川や県内外の風水害を題材に調べ、私たちの生活や産業との関わりについて考える。また、自然災害が起こりやすい我が国では国民一人一人が防災意識を高める必要があることに気付くようにする。

【捉えさせる内容とねらい】

①我が国の国土ではさまざまな自然災害が起こりやすいことを知る

■ 日本の自然災害の概要（全体像）をつかませる。（地震、津波、火山、風水害、土砂災害、雪害など）

(ア) さまざまな自然災害の種類を知る

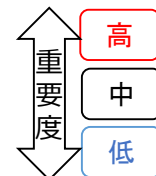
(イ) 秋田県でも風水害がいつ起こってもおかしくないことを学ぶ

(ウ) わが国で風水害の発生が多い理由を学ぶ

✓ 気候的条件から風水害が多いこと

✓ 地理的条件から風水害が多いこと

(エ) 風水害が発生した場合に起こる被害を知る



②自然災害の防止および災害発生時の対応のために、普段から国や県などがさまざまな対策や事業を進めていることや、災害時に緊急の対応を行っていることを知る。しかし、治水対策は万全でなく、避難して命を守ることを大事であることを教える。

■ 風水害に着目し、公的機関が国土の保全に努めていることを捉えさせる。（治水対策、避難場所の設置、ハザードマップ、洪水予報や避難指示等の発令、避難誘導、救助活動、復旧活動など）

(オ) 子吉川で起きた過去の風水害を知る

(カ) 国や県で行われている治水対策を学ぶ

(キ) 子吉川洪水ハザードマップの意味と見方を学ぶ

(ク) 治水対策は万全ではなく、避難して命を守ることを大事であることを学ぶ

(ケ) 風水害が発生した際に働く人々を知る

③国民一人ひとりが防災意識を高めることの重要性に気付かせる。

■ 防災の観点からよりよい国民生活の実現を目指す態度を育む。

(自然災害の防止（平常時・災害発生時）の国や県などの対策や事業の振り返り)

(風水害に加えて、私たちがさまざまな自然災害に備えてできること)

(コ) 風水害に対する心がけを学ぶ

✓ 普段からの心がけ

✓ 緊急時の心がけ

2. 本小単元の構成

【第 1 時】日本の自然災害の概要（全体像）をつかむ。

→日本ではさまざまな災害が発生している。（選択：風水害では地形や気候が関係しているようだ。）

【第 2 時】公的機関が国土の保全に努めていることを捉えさせる

→風水害を防止するためにさまざまな対策がある。また、風水害の発生による生活や産業への被害を軽減させるために、さまざまな人たちが連携・協力している。しかし、治水対策は万全でなく、避難して命を守ることが大事である。

【第 3 時】防災の観点からよりよい国民生活の実現を目指す態度を育む。

→平常時や災害時の対策を振り返り、自分たち一人ひとりの備えやできることを考え実行しよう。

3. 観点別評価

知識及び技能	我が国でおこるさまざまな自然災害を防止するために、国や県（都、道、府）、市町村などがさまざまな対策や事業を進めていることを理解し、地図や統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用して具体的に調べ、調べた過程や結果をノートや作品にまとめている。
思考力・判断力・表現力等	自然災害について、我が国の国土ではさまざまな自然災害が起こりやすいこと、その被害を防止するために国や県などの対策や事業が行われていることにより、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。
学びに向かう力・人間性等	アクティブラーニングを通して、自然災害について関心をもち、意欲的に調べることを通して、自然災害防止の重要性や国民一人一人が防災意識を高め、協力することの大切さ、避難して命を守ることの大切さを考えようとしている。

4. 学習内容と指導のポイント

	学習活動・内容	指導のポイント
1	〔自然災害のおこりやすい国土〕 我が国で起こる自然災害について調べ、我が国は国土の地形や気候とのかかわりで自然災害がおこりやすいことをつかむとともに、郷土の子吉川で風水害が発生した場合を材料に、私たちの生活や産業への影響を考える。	我が国で起こった自然災害の発生状況や、発生しやすい理由を、写真や図を活用し学習させる。
2	〔自然災害からくらしや命を守るために〕 郷土の子吉川を題材に風水害を防止するために、普段から国や市町村などがさまざまな対策や事業を進めていることをつかむとともに、風水害が発生した時の関係機関の働きや連携について捉える。また、治水対策は万全でなく、避難して命を守ることが大切であることを理解する。	自然災害の一つ、風水害を防ぐために全国で行われている一般的な対策や事業を知らせる。また、子吉川の堤防やダムを調べ、学習させる。 治水対策は万全でない部分があることから、避難して命を守ることが大切であることを気付かせる。 また、風水害発生時に働く組織などを知り、多くの人の働きによって安全なくらしが成り立っていることを学習させる。
3	〔自然災害に備えてできることを考えよう〕 これまでの学習を振り返り、自分たちの身の回りにも風水害などの自然災害が起こることを認識し、国民一人一人が日頃から防災意識を高めることが大切であることに気付く。	自分たちの住む街にある避難所や普段からの備えといった最低限必要なことを調べながら、風水害などの自然災害が発生した時に備えて自分自身にできることを考えさせる。

「自然災害のおこりやすい国土」（1/3）

1.本時の位置づけ	小学校5年生社会「自然災害の防止」（全3時間）の導入の時間として位置づける。
2.学習内容のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・日本には、豊かな自然がある一方で、ひとたび自然災害が発生すると、大きな被害となる。豊かな自然と自然災害は隣り合わせとなっている。 ・自然災害には、地震、津波、風水害（台風被害や洪水）、土砂災害、雪害、火山の噴火、日照りなどがある。 ・（選択）風水害の発生する要因として、国土の地形や気候が関係している。 ・秋田県でもいつ風水害がおきてもおかしくないことを気付かせる。
3.指導上の工夫	・ICT（大型TV、PC、タブレット）の活用
4.本時のねらい	<p>日本で発生しているさまざまな自然災害について知る。【知識及び技能】</p> <p>秋田県で起こりやすい自然災害を考える。【思考力・判断力・表現力】</p> <p>（選択）風水害の発生と国土の地形や気候との関係を考える。【思考力・判断力・表現力】</p>

学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項
導入 (10分)	<p>本単元では、我が国の国土ではさまざまな自然災害が起こりやすく、生活や産業に大きな影響を与えること。その被害を防止するために、国や県などがさまざまな対策や事業を進めていること。一人一人が防災意識を高める必要があることを気付くようにする。</p> <p>①我が国の「豊かな自然」と「自然災害」の様子を比べることを通して、本時のめあてをつかむ。</p> <p>「豊かな自然」⇔「自然災害」 秋田駒ヶ岳 ⇔ 昔に噴火した（1932年、1970年） 鳥海山 ⇔ 昔に噴火した（1974年）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT（大型TVなど）を活用して、自然災害の前後の変化がわかるようにする。 ・写真を活用し、災害の恐ろしさを気づかせる。
展開 (30分)	<p>②我が国で起こる自然災害の概況を調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波以外の自然災害について予想する。 ・土砂災害、風水害なども自然災害の中に含まれることを理解する。 <p>③秋田県の地形と自然災害を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田県は日本海に広く面している。 ・日本は地震の多い国である。 ・子吉川は、秋田、山形県境の鳥海山を源として、本荘平野を流れ、日本海にそそいでいる。 <p>④自然災害の発生と国土の地形や気候との関わりについて考える。</p> <p>【地形】火山、地震、津波、風水害に係る地形 【気候】日本海性の気候で冬季の積雪寒冷が特徴だが、融雪出水だけでなく、前線性の降雨によって、過去に多くの大洪水が発生している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田県と南部の県境は、奥羽山脈が連なっている。 <p>⑤風水害が起こると、私たちの生活や産業にどんな影響があるかを問いかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路や家が浸水する ・橋が使えない ・電気やガスが使えない ・田畑が浸水して農作物などが被害を受ける ・工場が浸水して止まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県に該当する地形・気候条件を考え、風水害が起こりやすいことに気づかせる。 ・秋田県でも風水害がいつ起こってもおかしくないことに気付かせる。 <p>④は選択</p>
まとめ (5分)	<p>⑥まとめを伝える。</p> <p>⑦ふりかえりをノートにまとめさせる。</p>	

「自然災害から暮らしを守るために」(2/3)

1.本時の位置づけ	小学校5年生社会「自然災害の防止」(全3時間)の展開の時間として位置づける。
2.学習内容のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害を防ぐために堤防、ダム、放水路、捷水路(しょうすいり)、河道掘削、排水機場など数多くの対策が実施されている。 ・秋田県における治水対策においても、子吉川から川の水が氾濫しないように、堤防や河道掘削、ダムなどの対策が行われてきており、現在も対策を実施中である。 ・しかし、ハザードマップが示しているように、大きな洪水が発生した際には由利本荘市は浸水してしまう危険性があり、安心することはできない。 ・風水害を完全に防止することはできないため、風水害が発生した際に被害を小さくするために働く人々がいる。 ・風水害の被害を小さくするために働く人や思いを知ることで、自らもできることを考えるきっかけを与える。
3.指導上の工夫	・ICT(大型TV、PC、タブレット)の活用
4.本時のねらい	<p>自然災害の一つ、風水害の被害を防ぐための対策、災害が発生した場合に避難して命を守ることの重要性和関係する人々の働きを知る。【知識及び技能】</p> <p>対策の実施のためには、多くの協力が必要で風水害の被害を最小限にするために働く人々の思いを感じ取る。【思考力・判断力・表現力等】</p>

学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項
導入 (5分)	①前回の授業のふりかえりを行う。 ②子吉川で過去におこった洪水の写真を見せる。 ③風水害の防止のために国や県がどのような対策を行っているか子どもたちに問いかける。 →解答以外の治水対策も図を使って学習する。(堤防、引堤、放水路、捷水路、ダム、排水機場)	○ICT(大型TV)を活用して、治水対策がわかるようにする。 ・堤防、ダム以外にも治水対策があることに気づかせる。
展開 (35分)	④ダムや堤防などの治水対策について学習する。 ⑤ハザードマップを見せ、堤防が決壊するとどうなるかを学習する。 ⑥大きな洪水はいつ起きてもおかしくないこと、関係機関の治水に関する取組の現状を、VTRで学習する。 ⑦風水害による被害を小さくするために、どんな人々が働いているか調べる。	・河川管理施設の設置、維持についての学習で、風水害防止に公的機関が関わっていることを捉えさせる。 ⑥のVTRは選択 ・関係機関で働く人々の思いを伝える。
まとめ (5分)	⑧まとめを伝える。 ⑨ふりかえりをノートにまとめさせる。	

「自然災害に備えてできることを考えよう」(3/3)

1.本時の位置づけ	小学校5年生社会「自然災害の防止」(全3時間)のまとめの時間として位置づける。
2.学習内容のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然災害の防止」のまとめとして、これまでの学習の振り返りや、日ごろから防災に関して関心を持つことの大切さについて考える。 ・秋田県でも風水害は発生しており、今後も起こらないとも限らない。 ・もしもの時に備えて、自分たちで出来ることは、風水害に関係して働く人々に連絡することや、避難所の場所や連絡先を知ること、必要な持ち物を用意しておくこと等である。 ・自分たちの住む場所の避難所等を確認する活動や、自分たちにできることを話し合うことで、自助の意識高める。 ・風水害以外の自然災害についても同様のことが言え、自分たちでできることを考えることが重要である。
3.指導上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(大型TV、PC、タブレット)の活用 ・アクティブラーニングを考慮 ・グループ単位での学習
4.本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害時に自分たちができることを考え、万が一に備えて避難所や必要な準備を調べることができる。【主体的に学習に取り組む態度】 ・風水害に限らず、自然災害に備えることが大切であることに気付くことができる。【主体的に学習に取り組む態度】

学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ①これまでの授業を振り返る。 ・日本は気候条件と地形条件により自然災害が起こっている。 ・自然災害を防止するために、国や県などがさまざまな対策を行なっている。 ・自然災害が起こると、生活や産業に大きな影響を与える。 ・自然災害の被害を小さくするためにさまざまな人々が活動し、私たちの安全を守っている。 	<p>簡潔に1~2時間を振り返る。 (1~2時間のそれぞれの時間のまとめを発表させる。)</p>
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ②チェックシートを配布し、普段から災害に備えてできていることを確認する。 ③ハザードマップを使って、避難場所を調べさせる。 ④ハザードマップで浸水しないとされている場所でも、決して安全ではないことを学ぶ。 ⑤災害に備えて、普段から家庭でできることの大切さを伝える。 ⑥風水害が発生した際に自分たちができることを班で話し合い、発表する。 ⑦風水害以外の災害への備えとの共通点を考え、自然災害には備えが必要であることに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで学習させる ・「風水害に対する心がけ・緊急時の心がけ」に関する解説書を配る。 ・備えのほとんどが地震などの他の災害にも重要なことに気付かせる。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ⑧まとめを伝える。 ⑨ふりかえりをノートにまとめさせる。 	